

# 資源循環型施設建設に関する説明会【会議概要】

## 【内容】

平成29年11月から12月にかけて、秋和、上塩尻、下塩尻の各自治体で説明会を開催させていただきました。

説明会で出されたご意見、ご要望及び回答等について、会議概要として取りまとめましたので、ご覧ください。

目次		頁
1	秋和自治会（平成29年11月30日開催）	2
2	上塩尻自治会（平成29年12月16日開催）	6
3	下塩尻自治会（平成29年12月14日開催）	12

上田地域広域連合

上田市・東御市・青木村・長和町

## 資源循環型施設建設に関する説明会（秋和自治会）【概要】

日時：平成29年11月30日（木）

午後7時から午後9時20分まで

場所：上田市秋和児童センター

### ○出席者

・ <u>秋和自治会住民</u>	53人
・ <u>上塩尻自治会住民</u>	3人
・ <u>下塩尻自治会住民</u>	1人
・ <u>その他地域住民</u>	6人
計	63人

・ 行政側 母袋広域連合長、花岡副広域連合長、北村副広域連合長、  
羽田副広域連合長、井上上田市副市長ほか関係職員 計15人

・ 報道機関 朝日新聞、上田ケーブルビジョン、信濃毎日新聞、  
信州民報、東信ジャーナル、読売新聞 6社

### ○説明会の内容

あいさつ、出席者の紹介、資源循環型施設建設についての説明、質疑応答、その他

### ○主な質問・意見内容

#### □（発言）

- ・ 施設の安全性を説明するうえで、科学的データがない。安全性の判断ができない。
- ・ 専門家を加えたチームを編成し、市民にわかりやすく科学的に説明できることが大切。
- ・ 大人だけでなく子どもたち（高校生）の意見・アイデア募集をして欲しい。

#### ■（回答）（橋詰室長）

- 現時点では周辺環境に対する調査ができない状況。地元の皆様の御理解をいただく中で環境影響調査、施設整備計画策定を進めたい。施設建設に対する同意についての判断材料の1つとして御理解いただきたい。

□（発言）

- ・ 先日、対策連絡会からの中間報告会があり約60人、戸数でいうと秋和自治会の約10%の参加があったが、もう少し住民の関心を高めて行って欲しい。
- ・ 行政は西部地域の振興をどう考えているのか。具体的な計画はあるか。
- ・ なぜこの地域に建設するのか。住民の多くは公害や交通安全に不安を感じ迷惑施設のイメージをもっている。

■（回答）（峰村参事）

- 資源循環型施設については、防災機能や周辺地域へのエネルギー供給機能を合わせもったものを、また施設整備に合わせ施設周辺地域の道路、水路の整備を考えている。
- 総合的な福祉ゾーンとしたまちづくりを1つの案としている。
- 常磐城、秋和地区の課題として、排水対策の検討が必要ととらえている。
- 地域の実情、課題をお聞かせいただきながら、皆様と行政が共通認識を持ち一緒に考えていきたい。

■（回答）（橋詰室長）

- 市民生活に欠かせない施設を長年受け入れていただいていることに感謝申し上げる。
- 皆様方が焼却施設を迷惑施設であると懸念されていることについて、我々行政は、しっかり受け止め最善の対応をする。

□（発言）

- ・ 建設予定地200m先に住み、アパートを経営している。し尿処理場に隣接し、今度は焼却施設が建設されることによる風評被害もある。

■（回答）（橋詰室長）

- 二重扉、エアカーテン、燃焼用空気を吸引しプラットホーム内を負圧に保つなど、臭気を外に漏らさない対策方法があり、最善の対応をする。

□（発言）

- ・ 清浄園は、立派な施設である。解体するにはもったいないと感じる。
- ・ 地元への還元として、自治会費相当額（年間約500万円）の交付を合わせて検討して欲しい。

■（回答）（橋詰室長）

- 現在の清浄園は、平成9年に全面更新し20年が経過する。耐用年数は建物が50年、機械設備が7年と規定されており、機械設備については、更新が必要な時期になってきている。なお、施設建設費84億円のうち機械設備の費用（53億円）が6割以上を占めている。

□（発言）

- ・ 安心安全な施設整備を進めていくという説明の裏付けとして、専門家の意見を踏まえたものとして欲しい。

- （発言）
- ・ 有害物質の排出数値について、現施設と比較し、新しい施設はどの程度削減できるのか。
- （回答）（橋詰室長）
- 法規制値と東京都武蔵野クリーンセンターの自主規制値を比較した場合、項目ごとに異なるが、例えばダイオキシン類であれば10分の1になる。法規制値より更に厳しい自主規制値について、地域の皆様と協議しながら決めさせていただきたい。
- （発言）
- ・ 清浄園用地は、行政の土地であり、住民の反対運動があっても強硬に建設するのか。
- （回答）（母袋広域連合長）
- 住民合意を最優先に事業を進めていきたい。
  - 物事には、賛成反対あるが、対話を大切にしていきたい。
- （発言）
- ・ 上田市議会でもこの件について議論をもっとして欲しい。
  - ・ 地域振興の話が聞けたので判断材料としたい。
  - ・ 女性の意見を出していただける機会を設けて欲しい。
- （発言）
- ・ 諏訪部自治会が反対の立場をとっている。説明会を開催できないまま事業を進めるのか。
  - ・ 他の建設地を探すべき。
- （回答）（母袋広域連合長）
- 信念を持って進めているが、自治会を通じた話し合いの機会をいただけない状況。諏訪部の住民の方の中には、行政の説明を聞きたいという方もおり、これからもアプローチをしていく。
  - 諏訪部より範囲を少し広げ、例えば西部地域を対象とした説明会も考えられる。
- （発言）
- ・ ごみ減量化には、生ごみの減量化を取組むべきと考えるがどうか。
- （回答）（北島室長）
- 可燃ごみの約4割が生ごみと言われており、上田市においてもこれまで生ごみ堆肥化のモデル事業を実施してきた。特に臭いの問題など課題があり、現在のところ堆肥化施設建設に至っていない。継続して検討していく。
- （発言）
- ・ 秋和常磐城地区土地区画整理事業の話が出たが、既に組合も解散しているが現状はどうか。
- （回答）（峰村参事）
- 平成18年に組合は解散したが、都市計画上では区画整理事業は生きている。今後は、市の道路事業等として検討が必要と考えている。

## ○まとめ

### □（花岡副広域連合長）

- ・ 既に耐用年数を迎えつつある現クリーンセンターを経費をかけ延命化している。我々に残された時間は極めて少ない。
- ・ 東御市では、ごみ減量化を図るため生ごみ堆肥化施設を建設し、明日から稼働する。
- ・ し尿処理については、各市町村が個別に処理することを決め、今年の4月から東御市については川西保健衛生施設組合のし尿処理施設で処理している。

### □（北村副広域連合長）

- ・ 具体的データや数値をお示ししながら、皆さんの不安を払拭できればと感じた。そのためにも環境影響調査を通して、数値や内容をみなさんとやり取りしながら理解を深めていただきたいと思う。

### □（羽田副広域連合長）

- ・ 今日の説明会は、一步前進だと感じた。これからもこのような機会を重ねながら御理解をいただきながらこの問題を解決することが大切であると思う。

### □（母袋広域連合長）

- ・ 皆さんの感じられる不安や心配をどのように払しょくできるかがポイントだと思う。
- ・ 環境アセスメントに入れていない現状では、明快な科学的根拠をお示しできていない。
- ・ 有識者、専門家による検討や環境アセスメントを行わなければ、ご要望いただいた科学的データなどは明らかにならない。
- ・ 次世代を担う若者や女性の意見を聞く機会を設けていきたい。

## 資源循環型施設建設に関する説明会（上塩尻自治会）【概要】

日時：平成29年12月16日（土）

午後7時から午後9時32分まで

場所：塩尻地区公民館

### ○出席者

・ <u>秋和自治会住民</u>	1人
・ <u>上塩尻自治会住民</u>	33人
・ <u>その他地域住民</u>	2人
計	36人

- ・ 行政側 母袋広域連合長、花岡副広域連合長、北村副広域連合長、  
羽田副広域連合長、井上上田市副市長ほか関係職員 計15人
- ・ 報道機関 朝日新聞、上田ケーブルビジョン、信濃毎日新聞、  
信州民報、東信ジャーナル 5社

### ○説明会の内容

あいさつ、出席者の紹介、資源循環型施設建設についての説明、質疑応答

### ○主な質問・意見内容

#### □（発言）

- ・ この地域には、公共下水処理場、し尿処理施設がある。し尿処理施設を取り壊し焼却施設を建設する計画だが、このような施設が集中している例は県内外にあるか。

#### ■（回答）（橋詰室長）

- 焼却施設と下水処理場が併設されている例は、長野県内では承知していない。県外での例を承知している。詳細は、説明会の総括の際に報告する。

#### □（発言）

- ・ 行政のごみ減量化、資源化に対する現状の取組（広報、住民説明会）だけでは、弱いのではないか。更に、具体的な取組が必要ではないか。
- ・ 埼玉県戸田市、蕨市では、希望する住民に対し無料でバケツを配布し、生ごみを堆肥化し、堆肥は住民に還元している。また、古着を回収し、フェルト化したものを土の代わりに植物栽培用として利用している。更に木製の大型家具を回収し、

修理後希望する市民に販売しているなど、具体的に取り組む、シルバー人材センターの高齢者の雇用の場にもなっている。

- ・ 事業系ごみの減量化も必要。ドイツでは行政と企業が一緒になって減量化に取り組んでいる。

■（回答）（北島室長）

- 事業系ごみについては、可燃ごみに占める割合は概ね 1/3。事業所から排出されるごみのうち、事業系の一般廃棄物については、市町村の処理責任のもとで事業者自らの手で処理する必要がある。事業系ごみ減量マニュアルを作成し、事業者への啓発を強めたい。
- 広報については、分別や減量化の理由を具体的にお示しし、わかりやすい内容としたい。

□（発言）

- ・ 生ごみ減量化について、成果の上がる政策ができていない。上田市は堆肥化施設建設の計画はないというが、地域を限定した堆肥化施設建設、又は長和町の堆肥化施設で生ごみを受け入れていただくような考えはないのか。

■（回答）（北島室長）

- 現在のところ上田市では堆肥化施設建設の計画はない。これまで数十戸単位での大型生ごみ処理機を用いた生ごみ堆肥化のモデル事業を実施してきた。今後、堆肥化施設を含めどのように進めていくか改めて検討していく。生ごみはできれば土に還したいという思いはある。

■（回答）（羽田副広域連合長）

- 長和町の堆肥化施設は、多少余裕がある。

■（回答）（花岡副広域連合長）

- 東御市の堆肥化施設は、12月1日に運転を開始し、今後順次収集エリアを全市に拡大していく。状況を見ながら余裕があればということになる。

■（回答）（山口部長）

- 上田市として市の中でどうしていくかを検討していく段階。

□（発言）

- ・ 雑がみ回収について、圧着はがきなど現在は資源化できない紙も資源化できるよう進めて欲しい。また、市の封筒にごみ減量化・資源化に関する広報を入れるなどの取組を進めて欲しい。

■（回答）（両角課長）

- 現在のところ上田市では、圧着はがきや感熱紙など資源化できる雑がみとして回収していないが、古紙再生技術が向上していることから資源化に向けた検討を進めたい。

□（発言）

- ・ 他市町村と比較し、上田市の生ごみは資源として循環しているように思えない。
- ・ 可燃ごみの 1/3 が事業系ごみ。そのうち 44% が生ごみ。
- ・ まず、事業系の生ごみ減量化を進めてはどうか。事業所が組合を設立し独自に生ごみを堆肥化する。行政は全面的に事業所に協力を求めているかどうか。民間には自由な発想、取組むスピードの速さがある。また、企業のイメージアップにつながる。
- ・ なお、事業系生ごみの堆肥化が進むと、プラスチック混焼率が上がってしまう心配はある。

■（回答）（北島室長）

- 事業系生ごみの共同処理については、消費者の共感を呼ぶような事業姿勢であり、環境負荷を低減した事業者の取組が更に市全体に広がるよう啓発したい。

□（発言）

- ・ 清浄園を取り壊し、焼却施設を建設するとのことであるが、清浄園の取り壊しにかかる不良資産処理は何億円見込んでいるのか。
- ・ 焼却施設において発電事業を行うとのことだが、敷地面積は足りるのか。
- ・ 悪臭のもととなるプラスチックごみをなぜ焼却しているのか。

■（回答）（佐藤補佐）

- 現在の清浄園は、平成5年から9年にかけて全面更新してから、20年が経過した。機械設備の耐用年数は7年で老朽化が進んでいる。また、全国的に、し尿処理施設の傾向として、概ね20年から30年で全面更新されている。
- 水洗化等により、し尿処理量が激減している。計画処理量は日量280kℓであるが、平成28年度の投入量は、日量73kℓ、1/4まで減少している。更に減少が見込まれる。
- 施設自体の見直しの時期に来ている。

■（回答）（橋詰室長）

- 発電については、今回の施設建設に当たり、国の循環型社会形成推進交付金を使う予定で進めている。焼却した余熱を利用し、発電のようにエネルギーに変えることが必要であり、先進地の事例から今回の規模で2,400kw/h程度の発電が見込まれる。統合クリーンセンター建設に合わせ発電を行う計画である。

■（回答）（両角所長）

- プラスチックごみは、燃やせないごみに分別されている。クリーンセンターには、持ち込まないよう強くお願いしているが、残念ながら可燃ごみに混入している。また、統合クリーンセンターもプラごみを燃やさない計画である。

■（回答）（北島室長）

- 可燃ごみの約4割が生ごみと言われているが、現在のところ上田市では堆肥化施設建設に至っていない。これまで生ごみ堆肥化のモデル事業を実施してきた。今後、堆肥化施設を含めどのように進めていくか改めて検討していく。

□（発言）

- ・ 清浄園の取り壊しに係る不良資産処理は何億円見込んでいるのか金額を聞いている。耐用年数は、建築50年、機械設備7年というのは承知している。20億円ほどの資産を捨てるという懸念がある。
- ・ プラスチックの焼却について、クリーンセンターでプラスチックを焼却しているため悪臭で苦しんでいることを、以前から市の生活環境課に苦情を申し上げている。

■（回答）（橋詰室長）

- 清浄園更新事業は84億円かかり、内訳として機械設備53億円、建築土木31億円であった。財源の一部に国の補助金を活用しており、補助金返還の要否について確認したところ、補助金返還は不要との確認が取れている。
- 残存価値についての資料は、別途用意させていただく。



■（回答）（両角所長）

- 確かに可燃ごみにプラスチックごみが混入している。クリーンセンターでは、定期的に内容物検査を実施し、プラスチックに限らず金属などの不適切なごみの持ち込みがないかを検査し、仮に不適切なごみが持ち込まれた場合は、持ち帰るよう指導している。
- クリーンセンターでは、800度から900度という高温の炉内温度でごみを焼却している。また、発生する排ガスはバグフィルターなどで適切に処理しているが、もし悪臭があればすぐに御指摘いただければ、調査し対応を図りたい。

□（発言）

- ・ 環境影響評価の評価項目に、放射性物質を付け加えるべきかと思うがどうか。
- ・ 皇居周辺には、焼却施設がない。江戸川区など皇居に比較的近い地域では、皇居から一番離れた海岸側に施設がある。その理由はやはり一定の公害が出るためと思われる。
- ・ 上田市の人口密度の高いこの地域になぜ焼却施設を建設するのか。リスクヘッジに関して行政としてどう考えているのか。
- ・ 生ごみの減量化について、段ボールコンポストやコンポストによる減量化の取組を、今の若い世代にお願いしてもやらない。街中では場所もなく、忙しくて時間もない。現実に即した政策を考えるべきではないか。
- ・ 他都市、事業者の良い例（長野市の剪定枝木のリサイクル、リサイクルが難しいとされている紙類（使用済みティッシュペーパー）の資源化など）に学ぶべきである。
- ・ 東御市堆肥化施設見学したが、コンパクトな施設である。
- ・ 建設候補地について、行政が決めた上川原工業団地を広域議会が否決した理由が不明
- ・ 神ノ倉工業団地を断念後、専門家を入れた選定委員会で設置し、その後候補地となった東山も2年足らずで断念したが、今回ここで5年たっても目途が立たない。
- ・ 諏訪部自治会での説明会開催の目途が立っていないのは、今までの経過を見れば反対するのも当たり前、なぜ清浄園が候補地になったのか経過は、書面にして関係自治会の各戸に配布して欲しい。
- ・ この場をお借りして、上塩尻清水自治会長へのお願いする。環境影響評価に対する住民の意見書提出の際は、上塩尻自治会の約2/3は建設反対、また自治会代議員会で反対が決議されていることを必ず記載し提出して欲しい。

■（回答）（橋詰室長）

- 環境影響評価実施に当たっては、地域の皆様の懸念されることなど御意見をお聞きし検討しながら調査項目を決めていく。
- リスクヘッジという点については、環境影響評価を実施する中でリスクがどのくらいあるか等明らかにしていく。

■（回答）（山口部長）

- 過去の経過についての御質問は、文章にまとめてお示したいがよろしいか。

□（発言）

- ・ 結構です。先ほどお願いしたものと同様、書面にして関係自治会の各戸に配布して欲しい。
- ・ 諏訪部、秋和、上塩尻は、アンケートの結果、建設反対が多いにも関わらずなぜここまで来てしまったのか。その理由を反対している人たちにきちんと説明しなければ、前に進めない。

■（回答）（山口部長）

- 配布については、対策連絡会と協議の上、対応させていただく。

□（発言）

- ・ 対策連絡会の皆様よろしく申し上げます。

□（発言）

- ・ 幹線道路が周辺に整備され、収集運搬効率等が優れているというが、この地域には、県内有数の交通渋滞箇所があり、また交通事故も多い。道路整備は不十分な状況。古船橋北側交差点歩行者が信号待ちするスペースが狭い、歩行者の安全を確保することが優先されるべきである。
- ・ 渋滞が激しい地域を建設候補地としたのか疑問

■（回答）（峰村参事）

- 道路が整備されていないというのも事実。交通機能が特段に良いという地域ではないと認識している。時間はかかっているが、古船橋北側交差点付近の道路改良は5月頃までに整備する目途が立った。
- 市道五反田新屋線の上塩尻入口から西上田駅にかけて順次進めている。
- 上塩尻東交差点の渋滞対策について、引き続き国に強く働きかけていく。
- 地域の具体的な要望をお聞かせいただき、順位付けをして取り組んでいく。

□（発言）

- ・ 資料の6-3 これからの進め方に、特にこの地域には迷惑施設が多くあり、新たな施設には反対という御意見に対して、地元の皆様方の過去からの御苦勞とあるが、過去からの御苦勞とは何か。

■（回答）（橋詰室長）

- この地域には、現在は廃止となった施設を含め、と畜場、し尿処理場、下水処理場、焼却施設など生活に欠かせない施設を受け入れていただいていたこと、特にし尿処理施設については、オープンでの処理により臭気が漂っていたなど、御迷惑をおかけしてきたことの意味合いでの記載である。

□（発言）

- ・ 過去からの御苦勞の上に、更に焼却施設を持ってくるという考えは常識から外れた考えではないか。行政の最善の対応は、施設を分散化することではないのか。

○まとめ

□（花岡副広域連合長）

- ・ し尿処理については、清浄園を廃止し、各市町村が個別に処理することを決めた。東御市は今年の4月から川西保健衛生施設組合のし尿処理施設で処理している。
- ・ また、東御市では、ごみ減量化を図るため、平成28年度から進めていた生ごみリサイクル施設が完成し、12月1日から稼働した。
- ・ 用地確保が必要ない清浄園用地に建設できればとの思い、また環境影響評価も進めさせてもらいたい。

□（北村副広域連合長）

- ・ 3日間の説明会を通じて思ったことは、もう一度原点に立ち返り青木村として、更にごみの減量化について考えたい。幸い平成27年度から28年度のごみ量は、27年度と比較し大きく減量できた。
- ・ 生ごみ減量化は、コンポストによる処理を進めている。また、「もったいない市」を開催し、古着や瀬戸物のリユースを進めている。

- ・ たくさんの意見をいただいた、今後もキャッチボールをしながら、皆さんの不安、疑問などを回答させていただき、理解を深めたい。
- ・ 具体的データや数値をお示ししながら、皆さんの不安を払拭できればと感じた。そのためにも環境影響調査を通して、数値や内容をみなさんとやり取りしながら理解を深めていただきたいと思います。

□（羽田副広域連合長）

- ・ 厳しい御意見、建設的な御意見さまざまいただいた。我々も更に努力し皆様方に御理解いただき、また信頼関係をしっかり築きながら進めなければならないことを再確認した。
- ・ 長和町の堆肥化施設は、長門牧場にあり受入について距離的な問題はあるが、地域を限定した受入方法もあると思う。

□（母袋広域連合長）

- ・ 3箇所の説明会を終え、温度差はあると感じた。
- ・ 多くの住民の皆様の御協力により、ごみの減量化が進んでいる。課題は大胆に減らせないかということ。その中で生ごみ堆肥化施設の検討もしたが実現していない。
- ・ そこで、分散化ということから大型生ごみ処理機の設置、ぱっくんや家庭用の電気式生ごみ処理機購入補助を通じて、各家庭での御努力をお願いしているのが現状。
- ・ 生ごみの処理については、事業系、各家庭からの生ごみを更にどう減量するのが課題。
- ・ ごみ減量化・再資源化等に関する広報について、長野大学と共同で30・10運動の周知などはじめたところ、効果を期待したい。
- ・ 対策連絡会との協議は、真摯に向き合い議論するという努力の積み重ねがあつてのもの。5年という時間を費やしているが決して無駄ではない。
- ・ 交通の安全性については、朝夕の収集車の通行を制限するようなことで、交通渋滞やリスクヘッジにつながる方法あると思う。
- ・ 環境影響評価について、科学的根拠をもとに数字を示し、その上での安心がある。また、秋和や下塩尻で、次なる世代がどう思うかということを考えたらどうかのも提案あつた。
- ・ この問題は避けて通れない、我々現世代で必ず解決しなければならないという強い思いの中で広域連合としても進めていきたい。

## 資源循環型施設建設に関する説明会（下塩尻自治会）【概要】

日時：平成29年12月14日（木）

午後7時から午後8時35分まで

場所：下塩尻公民館

### ○出席者

・ <u>上塩尻自治会住民</u>	1人
・ <u>下塩尻自治会住民</u>	38人
・ <u>その他地域住民</u>	5人
計	44人

- ・ 行政側 母袋広域連合長、北村副広域連合長、羽田副広域連合長、  
田丸東御市副市長、井上上田市副市長ほか関係職員 計15人
- ・ 報道機関 朝日新聞、上田ケーブルビジョン、信濃毎日新聞、  
信州民報、東信ジャーナル 5社

### ○説明会の内容

あいさつ、出席者の紹介、資源循環型施設建設についての説明、質疑応答

### ○主な質問・意見内容

#### □（発言）

- ・ 施設で利用する水は、地下水のみで賄えるのか。
- ・ 用地買収も不要である清浄園用地を初めから候補地とすれば良かったのではないか。

#### ■（回答）（橋詰室長）

- 現在、清浄園では地下水を用いてし尿処理している。また、千曲川も近く伏流水も十分想定できる。1トのごみを処理するために、最新の施設では、0.4～0.5 m<sup>3</sup>の水を使用している。1日当たり144トごみを焼却すると約70 m<sup>3</sup>の水が必要となるが、十分賄えると考えている。なお、詳細は、地質調査の中で検討する。
- 候補地選定については、過去の経過を踏まえ、今回公共用地である清浄園用地という提案をした。

□（発言）

- ・ 施設整備に当たっては、周辺の自然環境との調和を図るとあるがどのように考えているのか。
- ・ この地域には、交通渋滞箇所があるが渋滞緩和と安全対策についてどう考えているのか。

■（回答）（橋詰室長）

- 自然環境を守っていくということを大きな柱の1つとしている。施設からの有害物質の排出を抑えることを検討するとともに、施設及び周辺の整備内容について地元の皆様の御意見をお聞きする中で行政としての方針を出していく。

■（回答）（峰村参事）

- 交通問題について下塩尻を中心に見ると、まず、市道五反田新屋線の整備については、しなの鉄道塩田踏切南側から西上田駅付近までの区間を、平成31年度内に完了させる見込みである。また、その先、下塩尻フジ印刷までの整備は、歩道設置を考えるとともに、交通量の増加による安全対策として、公安委員会との協議をしながら信号機の設置を検討する。また、西上田駅から上田西高校までの歩道整備を検討する。
- 国道18号線と上田バイパス交差点の渋滞緩和については、以前、坂城方面から来た車の左折専用レーンの設置を検討した経過があるが、実現に至らなかった。渋滞緩和はもちろん、渋滞時に集落内への車両を進入させない対策も必要と考えている。
- フジ印刷から下塩尻ポンプ場を経由し、堤防道路と接続の上、坂城町の鼠橋までの整備の検討も必要と考えている。
- 交通対策については、関係機関との協議をしながら取り組んでまいりたい。

□（発言）

- ・ 上田大橋から堤防道路にかけてのルートは、地域の生活道路である。安全対策はどう考えているか。
- ・ 欠口用水の頭首工のある所から、堤防道路に橋を架けることはできないか。

■（回答）（峰村参事）

- 拡幅整備を検討している。御提案は検討材料とさせていただく。

□（発言）

- ・ 施設の統合化によるメリットとして、施設維持経費が節減できるとあったが具体的内容はどうか。

■（回答）（橋詰室長）

- 現状3つのクリーンセンターがあり、統合化により1つの施設になる。複数の施設の維持にかかっていた経費が、1つになることで人件費、修繕費など複合的な要因で経費が節減できるようになる。

□（発言）

- ・ ゴミ減量化を進めるには、生ゴミを燃やさないことが一番大切。上田市の生ゴミ減量化の取組は抽象的ではっきりしていない。取り組む意志はあるのか。

■（回答）（北島室長）

- 可燃ゴミの約4割が生ゴミと言われているが、現在のところ上田市では堆肥化施設建設に至っていない。これまで生ゴミ堆肥化のモデル事業を実施してきた。今後、堆肥化施設を含めどのように進めていくか改めて検討していく。

□（発言）

- ・ 計画する施設の焼却能力は、1日当たり144トである。この数値は減量化が達成できた場合のものであり、減量化できなかった場合は焼却能力は増えるのか。

■（回答）（橋詰室長）

- 1日当たり144トという数値は、平成32年度のごみ減量化目標値から算定したものである。目標達成するという考えのもとに計画を進めていること、また、施設稼働までは事業着手から概ね7年間かかることから、ごみ減量化目標値を新たに見直すとともに、実際に施設が稼働する時期に合わせた施設規模を検討する予定である。また、少なくとも144トより大きくしない見込みである。

□（発言）

- ・ 今までの質問に対する回答は抽象的で胸に落ちない。今後、どの程度賛同を得られたら行政はゴーサインを出すのか。

■（回答）（橋詰室長）

- 具体的な施設整備計画、地域振興策については、地元の皆様方と協議しながら進めさせていただきたい。

■（回答）（母袋広域連合長）

- 環境影響評価に4年程かかる。皆様に評価から得られた情報を示し説明する時間も必要となる。現時点では、住民合意を前提に考えていく。また、合意というのは、対策連絡会、諏訪部自治会などの状況を見ながらになる。結論的なものを導き出すには、この1、2年は難しい。収まり具合、理解度、対策連絡会の動向などを斟酌し、最終的に広域連合の場で決める。

□（発言）

- ・ 1日当たりのパッカー車の台数をどの程度と想定しているのか。また、排気ガス削減のための対策を考えているか。

■（回答）（橋詰室長）

- 1日当たりのパッカー車の台数は、130台を見込んでいる。民間事業者に対しハイブリット型パッカー車購入補助も考えられる。収集車から排出される排気ガスの影響も調べる中で検討したい。

## ○まとめ

### □（田丸東御市副市長）

- ・ 東御市では、ごみ減量化を図るため、平成 28 年度から進めていた生ごみリサイクル施設が完成し、12 月 1 日から稼働した。1 日 4.5 トン、年間 876.5 トンの生ごみを処理することができる。市内で発生する燃やせるごみの約 20% の減量を見込んでいる。
- ・ し尿処理については、各市町村が個別に処理することを決め、今年の 4 月から東御市については川西保健衛生施設組合のし尿処理施設で処理している。
- ・ 資源循環型施設建設は、東御市の立場としても、重要な課題としてとらえている。

### □（北村副広域連合長）

- ・ 青木村では、コンポストによる生ごみ減量化等を進めている。平成 27 年度から 28 年度のごみ量は、27 年度と比較し大きく減少している。
- ・ 「もったいない市」を開催し、古着や瀬戸物のリユースを進めている。
- ・ し尿処理については、長和町と共同処理する施設を現在建設中
- ・ 環境アセスメントを実施させていただきたい。具体的データや数値をお示ししながら、皆さんの不安を払拭させていただきたい。
- ・ 地域内道路の件、収集車の排気ガスの件など環境に関することについても真摯に議論を進めてまいりたい。

### □（羽田副広域連合長）

- ・ 母袋広域連合長は、地元の理解を大切に無理には進めないという姿勢で取り組んできた。
- ・ 今後もこのような会を重ねながら、地元の皆様の御理解をいただきたい。

### □（母袋広域連合長）

- ・ 具体性に欠ける説明という御指摘があったが、環境影響評価を実施し科学的な根拠を示しながらでないと、問題解決につながらない。また、広域連合議会や上田クリーンセンターの地元自治会である泉平自治会から環境影響評価の事業着手を求められている。
- ・ 秋和、そして今晚の説明会を通じて、まず、環境影響評価に着手しなければならないという強い思いがした。
- ・ 道路に関する要望事項については、今後、対策連絡会あるいは各自治会としての要望を整理し、絞り込む作業が出てくる。また、道路に限らずソフト的な話も出てくる。
- ・ しっかり取り組まなければならない課題であり、更なる努力をする。今後もこういう場はあるのでその際は御出席いただき率直な御意見をいただきたい。

御不明な点や、疑問点などありましたら、次の連絡先までお問い合わせください。

問い合わせ先

**上田地域広域連合 事務局**

**ごみ処理広域化推進室**

〒386-0027 上田市常磐城 2320 番地

TEL 0268-71-7705

**上田市 生活環境部**

**資源循環型施設建設関連事業課**

〒386-0027 上田市常磐城 2320 番地

TEL 0268-71-8082

発行年月(平成 30 年 4 月)